

# 防犯 最新線

## 機動力あふれる青パトで広範囲カバー HP、回覧で広報

第2話 五色園区防犯パトロール隊



パトロールに出発する高橋さん(右)と藤本さん=五色園で

7月の夕方、長閑な住宅街で一台の青色回転灯パトロール車が巡回に出掛けた。

「五色園では青パトが隅々まで回り、不審者に目を光らせています」。4月からパト隊長のバトンを引き継いだ区長の高橋佑輔さん(68)は力を込めて話す。

自治会として歴史のある五色園区は、2006年12月にパト隊を発足させた。青パト車を自前で購入し、翌年度から活動を開始して今年で10年目。愛知万博が開かれた05年当時、長久手・豊田間の交通量が増え、地区で侵入盗が多発したことが立ち上げのきっかけとなった。

自治会、いきいきクラブ、民生委員児童委員の人らが青パト活動にかかわるスタイルが特長だ。専用車両の運転に必要な実施者証を88人が持つほか、30人近いボランティアが活動を支援。夜間パトも行うが、犯罪が起こりやすい夕方までの間、ルートや時間をランダムに選んで車を走らせている。その日数は児童の見

守りを合わせれば、実に216日というハイペースだ。

2年前には地区内に防犯カメラが設置され、自動車盗などの犯罪は激減したが、今年1月から3月にかけて、侵入盗が5件発生し緊張が走った。

自治会で交通防犯の専門部を引く藤本勇さん(74)は、ゴールデンウィークの10日間、「歩行パトロール」を計画した。青パトを歩行パトに緊急シフトする試みで、延べ160人体制で集中的に巡回した。同時に回覧や自治会のホームページでも注意を呼び掛け、その後の抑止に効果を発揮した。

多くのメンバーが情報を共有する手段が活動日誌だ。藤本さんは「異常がない一方で、日中なのに『親子の姿が見えない』という不安の声も隠せません」と明かす。確かに、高齢者が集中する区域があれば、共働きの若い世帯ばかりの区域もある。「生活スタイルに防犯活動をいかに合わせて、賛同者を増やすか」が今後の課題だと分析する。

そして、高橋さんは先人の功績をたたえつつ、こう話す。「五色園は自然豊かで明るく住みやすい街。しかし、それ

### 日進市安全安心推進大会

6月22日、市民会館で開催。市内で交通安全・防犯・更生保護の各分野で活動する41団体の約300人が参加し、犯罪や事故のないまちづくりへの決意を新たにしました。萩野幸三市長は主要幹線道路に防犯カメラを増やす計画に触れ「人も防犯カメラも含め、社会全体で監視の目を光らせたい」と呼び掛けました。

### 県警一斉パト出発式



7月1日、愛知署などで開催。今年、県内の侵入盗の被害が全国最多のペースで多発し、市内でも空き巣やナンバープレートなどを狙った部品ねらいが発生しています。西川幸伸署長は「侵入盗の被害はお金だけでなく心の傷も大きい。皆さんと協力して犯罪を減らしたい」と話しました。(写真は署提供)

は安全安心であってこそ。角度を変えた発想や工夫をして泥棒をあきらめさせたい」